

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300609		
法人名	ひだまり荘 株式会社		
事業所名	ひだまり荘		
所在地	由布市庄内町高岡491		
自己評価作成日	平成23年12月7日	評価結果市町村受理日	平成24年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472300609&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館1F		
訪問調査日	平成24年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

34人乗りの大型バスを所有しており、天気の良い日には外出し、外の空気を吸いに行っています。地域の方も協力的で、地域の行事に参加させて頂いたり、ひだまり荘の行事に参加して頂いたり、あたたかい関係づくりができています。
職員の仲も良く、バドミントン大会やバレーボール大会、社員旅行で、絆を深めている。新しく理念を関係者全員で考え、達成できるよう職員一丸となって利用者を支えて行きたいと考えています。
「ひだまり荘」を開設し、来年は10年目なので、心機一転、初心を忘れずに頑張りたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の豊かな自然に抱かれた田園地帯に在り、隣接して有料老人ホーム・デイサービスを配する、木造平屋造り2ユニットの施設です。利用者一人ひとりの思いの尊重と、寄り添える介護を目指し、職員間の周知をもとにチームケアの実践に努めています。オリジナル体操や散歩等、日常的に身体を動かす姿勢を大切に、体調の安定と機能訓練が行われています。「食」への関心をいなく、楽しい食卓への配慮にも取り組んでおり、嗜好や栄養バランスを考慮した彩の豊かな献立と雰囲気づくりに励んでいます。栄養状態や水分の摂取量をチェックする書式を用い、利用者の身の状況等を効率的に医師に提供する仕組みも整備されています。地域の住民や消防団・行政との、協力体制と継続的な関係作りが図られており、地域の中で暮らす利用者の安全と、個々の尊厳を旨とする、安心な日常生活を満たす活動に全職員で取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員と利用者で考え、利用者家族に助言頂き、ひだまり荘に係っている全ての人で作成した為、無理なく自然な形で理念が実行できているように思われます。	利用者の思いを第一にその人が快適に過ごせる方法をと、利用者・家族会・職員全員で、昨年新しく理念を作り直し、地域生活の継続支援に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の利用者が入居している為、近所の方が遊びに来て下さったり、地区のお祭りに参加させて頂いたり、ひだまりの行事に参加して頂いたり楽しく田舎ならではの交流ができています。	地域の方から、お祭りはいつですか?と問い合わせがあったり、小学校の小運動会に席を設けてくれ玉入れなど参加させてもらっています。また近くの保育園児たちも訪問してくれ地域の方とのふれあいを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の集会や老人会で、認知症の症状や対応方法の情報を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、包括支援センター、利用者と運営推進会議を行っている。家族の参加が難しいが、運営推進会議で話し合っ欲しい事などは事前に申し出て頂くようにしている。	運営推進会議に民生委員さんが地域のひとを連れてきて参加していただいたり、防災のことであったり、報告だけではなく、その時々にあった会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、定期的に市町村担当者と情報の交換ができており、行政からの情報について詳しく聞く時間もとれており、いい関係ができています。	市の担当者とは、困難な事例を相談できる関係が作れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行っており、身体拘束をおこなわない介護を提供できるようにしている。拘束しない介護を提供する為、日頃と違う状態の変化にいち早く気付けるように心がけています。	毎年研修を行い職員全員が何が身体拘束に当たるのかを理解し、その人の立場に立ち自由な暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を行っており、特に精神的虐待を行わないように気を付けている。言葉による虐待で入居者を傷つけないように、職員同士で注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の権利擁護研修会へ管理者が参加し、権利擁護について学んでいる。相談者や入居者で成年後見制度が必要な方には情報を提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、施設の説明を行い、疑問点や施設に望む事を伺い、不安なく入居できるようにしており、入居してから分からない事はいつでも相談できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、利用者や家族も出席し、外部者へ想いや日々の様子を表せる場を設けている。また、御意見箱を設置しており、利用者や家族の意見を聞けるようにしている。	定期的に家族会が開かれており、意見や要望が言いやすい場となっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、申し送り時に代表者、管理者、職員で意見交換を行っており、利用者が快適に生活できるようにしている。また、随時、提案があれば、すぐに対応できるようにしている。	職員からの提案で使いづらかった浴室をすぐに改装するなど、随時対応出来ています。またバドミントン、バレーボール、旅行など職員間の福利厚生も整い意見や提案を出しやすい環境となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格や役職を持つことで、責任感を持って仕事をしている。実績や努力が給与に反映されている。労働時間は全員同じ条件で、残業もない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は毎月一回行っており、外部研修の情報を提供し、希望者には休みや費用の支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	由布市内のグループホームで交流を希望するホームで報告会や悩み相談などなんでも話せる関係づくりをしており、サービスの質の向上につなげていけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や交友関係、趣味や家族関係などを伺い、本人が困っている事や要望にこたえられるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの支援方法や不測時の対応方法などを家族から伺い、それまでの対応と変わらない対応ができるようにしている。また、家族が困っている事を伺い、解決できるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り在宅で生活できるよう、相談者へ他のサービスや居宅介護支援事業所を紹介し、本人が今一番必要なサービスを提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は、信頼関係を築いている為、恥ずかしい事も言える関係になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と施設が一体となって、本人を支え、本人と家族の絆をより一層深められるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の入居者が多いので、自宅の近くをドライブしたり、親しい友人と交流できるようにしている。親しい人へ電話や手紙を送り、関係が切れないようにしている。	家族の方が知人を連れてきてくれたり、暑中見舞い、年賀状は必ず出すようにしたり、継続的な交流を保てる支援が来ています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状態にもよりますが、寝たきりにならないよう、極力、起きて生活できるようにしており、それまでと変わらない環境を提供している。(他者の話し声や笑い声、生活音が聞こえるようにしている。)		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も関係が切れたわけではなく、必要な時はいつでも相談に乗れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族より、生活歴や性格、趣味、交友関係などを伺い、本人と家族の意向を反映できるようなケアプランを作成している。	生活歴や生活環境などを考慮し、その人の立場にたってアプローチをして意向を把握し、職員間で共有出来ています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ベッドやタンスの配置等、それまでの生活と変わらない配置にしたり、それまで使用していた家具や布団を使用していただく事で安心して生活してもらえるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント、モニタリングをとり、個々の状態を把握し、できる事、支援すればできる事、できない事を理解できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合い、希望や提案をケアプランに反映させ、少し頑張ればできそうな短期目標と六ヶ月後の目標(長期目標)を作成している。	少しの変化も見逃さないよう記録し、担当者も2カ月交代としながら月に一度モニタリングをし、職員全体で介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に一回モニタリングとアセスメントを担当者で行い、状態の変化に気づけるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	私達に出来る事は行っています。 法テラスで弁護士に相談し、利用者を守る事もできました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所を始め、社会福祉協議会、地域包括支援センター、民生委員、区長、地域住民の方々のご協力で、地区の情報や楽しみごとを提供していただき、友好関係が築けてきているように感じます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に継続して見ていただいている。変更する場合は、以前の医師より情報を頂き、以前と変わらない医療が受けられるように支援している。	利用者や家族の意向に添った医療機関への受診が行われています。日常的に身体状態の把握に努め、情報は全職員で共有しています。受診結果や体調の変化等は家族に伝達しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの状態の変化に気づき、看護職へ相談し、医療機関を受診し、家族へ報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師やソーシャルワーカーと定期的に連絡をとり状態を伺い早期退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の話を軽くお伝えし、いつの日かそういう状態になる事もあると理解していただき、終末期に入った時、詳しくその後の方向を家族、医師、ホームで話し合っている。また、看取る事も出来る事を伝え、最後まで慣れた環境で過ごす事ができるようにしている。	利用者や家族の意見・希望の把握に努めており、その意向を大切に家族と共に支え合う介護に取り組んでいます。医師と家族との話し合いや意思確認が交わされるなど、終末期介護に全職員で取り組む姿勢が伺えます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出来る範囲の初期対応ができるよう研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、消防署の協力のもと、通報訓練、避難訓練、消火訓練を行っている。毎回、夜間を想定し訓練を行っている。また、スプリンクラーを設置しており、初期消火出来るようにしている。食料の備蓄や水の確保は、公共機関と連携をとり災害時には提供していただけるようにしている。	法人全体で非常災害時への連絡網のシステムづくりが行なわれる中で、地域の消防団や地域住民との繋がりが継続的に保たれています。危機感を持ちながら職員が一体となり安全対策に取り組む姿勢が伺えます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴を参考にし、家族からの情報と照らし合わせ、触れて欲しくない話題は出さない等いろいろな面で個人を尊重し対応している。	家族や利用者一人ひとりの思いの把握に努めながら、個々の思いの尊重を旨に、その人らしさを大切に「尊厳」ある暮らしのケアに取り組んでいます。職員間の周知を図りながら利用者本位の介護に努めています。	管理者は、生活の質の向上に資するサービスの提供を支持しており、質の向上への取り組みとして「気付きプラスアルファ」の援助を目指しています。チームワークを基盤に、一層の励みに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話せる方は言葉で伝えて頂き、認知症が進んでいる方は、元気だった頃やっていたようにしたり、家族と相談しどうい対応が良いか一緒に考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなりズムは崩さず、自由な時間は、それぞれ違った生活をされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族との外出など、特別な日には特におしゃれをして、楽しめるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備ができる方には、下準備を、出来ない方には盛り付けやお膳拭きをして頂き、食事の時間が楽しい時間になるようにしている。また、盛り付けも、見て楽しめるような色使いをしています。	季節の食材(取れたて野菜等)を用い、栄養のバランスや彩りにも着目した献立と、職員と共に囲む食卓から、食事を楽しむ姿が伺えます。利用者の嗜好を取り入れた献立づくりや、食べやすい食器等への配慮も行なわれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックを行い、バランス良く食べられているか、制限のある食事の管理を行い栄養状態をチェックし、医師へ情報提供している。水分量は一日1500ccは摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ、誘導、一部介助、全介助、個々に応じて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力、トイレ誘導を行いオムツの使用を控えている。尿量や排泄時間が個々で違うので、尿取パッドのサイズを時間で変更したり、失禁によるストレスを軽減できるようにしている。	一人ひとりの利用者の現状の把握と気付きを大切にする中で、情報は共有され、個々の状態に応じた声かけや誘導に向けて、全職員で対応しています。また、身心の健全を目指して便秘解消にも積極的に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事と適度な運動を行い便秘にならないようにしている。できるだけ、薬に頼らず自力で排泄出来るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は事故のリスクが高いため、職員の多くいる時間に、見守りや介助を行うようにしています。職員の少ない夜間にどうしても、入りたい場合や汚れた場合は入浴出来るようにしています。また、ゆず湯や菖蒲湯、バラ湯	利用者1、対介護者2の支援になりつつある現状の中で、職員のチームワークをもとに、安心して楽しめる安全な介護に向け、積極的に取り組んでいます。一人ひとりの利用者の習慣や好みも職員間で共有しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、寝たきりにならないように起きて活動し、夜間よく休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より注意事項を伺い、気をつけて対応している。また、変化があった際には、医師、薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	若い頃にしていた仕事や性格、趣味を伺い、得意な事が継続して出来るようにしている。(絵を描く、本を読む、畑仕事、花を育てる、手紙を書く)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひだまり荘では大型バスで、ジャスコへ買い物へ行ったり、海、山、クリ拾い、お花見等でドライブに出かけています。家族と外出される時は、注意事項や薬の時間等、細かい事までお伝えし快適な外出ができるようアドバイスしています。	一人ひとりの思いに寄り添い、付き合う姿勢を大切に、職員間での共有が図られる中で、外出支援(日光浴・外気浴・バスドライブ等)による気分転換が行なわれています。喜びの表情の気付きと、支援の実践への取り組みに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族了承の元で、ご本人にお金(3000円程度)を持って頂いています。外出時に使用し、買い物の楽しさと金銭感覚を忘れないように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけられる方は、自分でかけています。かける事ができない方は、プッシュのみ職員が行い会話は別室でして頂き、プライバシーに配慮している。ハガキは季節毎に送り、その他、送りたい時に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	田舎のホームなので、窓の外は常に季節を感じられる風景になっています。共有スペースは、バリアフリーで、混乱を招くような造りになっていない。	光彩豊かなテラス・庭等は、利用者と職員のくつろぎの場として活用されています。居間の観葉植物・水槽や手作りの装飾品等は、日常生活に潤いを添えています。自立への支援を志す、職員のアイデアと工夫が随所に発揮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	暖かい日には、外でレクリエーションをしたり、テラスやサンルームでお茶を飲んだり、自由に気のあった人と楽しく過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ、今までと変わらない部屋作りをしています。使い慣れた物を持参して頂き、環境に早くなじめるようにしています。	家族等から生活層を聴取しながら、一人ひとりの利用者の個性を大切に、リラックスできる生活しやすい居室づくりに取り組んでいます。目覚めの起き上がりの向き(ベッド配置)にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来る事」よりも「出来ない事」のサポートがそれとなくサポート出来るように、建物を設計している。(手すり、入浴介助リフト、洗面所の高さ等)		